

## 編集後記

2022年も、新型コロナウイルス感染症のパンデミックによる医療提供体制の逼迫に加えて、ウクライナ情勢の影響から資源高騰や医療材料の供給不足もあり、さらには薬剤の販売停止が度重なるなど、我々医療の現場にとっては昨年も大変な一年になりました。一方で、北京の冬季オリンピックやカタールのサッカーワールドカップでの日本代表の活躍に元気づけられた方もいらっしゃるのではないのでしょうか。

さて令和4年、第61巻の神戸市立病院紀要は中央市民病院の木原康樹院長による心不全の新しい概念についての総説にはじまり、西市民病院呼吸器内科の瀧口純司医長、西市民病院臨床検査技術部の弘田大智技師、西市民病院看護部の大橋佳奈看護師、同じく西市民病院看護部の樽本南々帆看護師からの報告を掲載しております。ご投稿をいただいた著者の皆様に厚く御

礼を申し上げますとともに、編集および発刊に際しましてご尽力をいただいた法人本部の紀要事務局の担当の皆様にも深く感謝いたします。

この神戸市立病院紀要は科学技術振興機構(JST)が運営する電子ジャーナルプラットフォームのJ-STAGEに2019年から掲載されており、2011年(第49巻)以降のバックナンバーも閲覧できます。皆様の日頃の業務への取り組みを振り返り次代に残す情報発信の手段として、ぜひご活用をいただければと思います。

神戸市立神戸アイセンター病院  
副院長

平 見 恭 彦